



市長 からの 手紙

46 かわせみ 翡翠

自宅から九十川の起点を經由して伊佐沼をまわる道を、週に1~2回歩いています。一昨年までは、九十川やその近くで翡翠の姿を年に数回は見掛けていました。九十川に突き出ている木の枝に止まっていたり、川の上を飛んでいたりする姿に気が付いたものですが、昨年は伊佐沼近辺で一度も見えていません。

その代わりに、最近家の近所でトビの姿を2度見掛けました。初めは昨年夏頃、北田島の少し西方の水田地帯で、次は今年2月中頃、問屋町の西方です。それぞれかなり上空を、2羽のトビが翼を広げたまま悠然と円を描いて飛んでいました。昔から飛んでいたのかもしれませんが、鳥や虫に興味を持って毎日外遊びをしていた小学生の頃も、家の近くでトビを見た記憶はなく、60年以上住んでいて

初めてです。

他にも20年ほど前から、伊佐沼や自宅近くの田・小川で子どもの頃には見掛けたことがなかった、大型のサギの仲間と思われる鳥をかなり頻繁に見掛けるようになりました。鶴と同じくらいの大きさの青灰色の鳥(アオサギという名のようです)、コサギの倍以上の背丈がある全身真っ白な鳥(ダイサギという名のようです)が、春から秋にかけて普通に見られます。

アオサギやダイサギという名前は、最近まで知りませんでした。インターネットで調べて分かりました。昔は全く見た覚えのないアオサギやダイサギが、私の家の近くでも普通に見られるようになったのは、鳥の餌場やすむ場所が少なくなってきた結果としか思えません。以前このコラムで取り上げた、タヌキが近所にすむようになったことと同様のように思えます。

これから人口が減ることが予測されています。人口が減れば人間が使う土地が減ってもおかしくありませんが、その分、動物たちのための土地が復活してもよいのかもしれないなどと考えています。

川越市長 川合善明

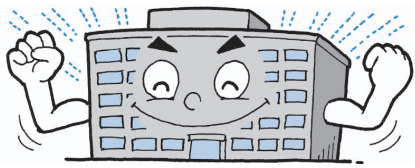
未来に向けて⑫

市民とともにある社会資本の実現3

政策企画課 224・5503

現在、公共施設等の老朽化が全国的な問題となっています。しかし、すべて建て替えることは、社会保障費の増大など厳しい財政状況のもとでは困難です。一方、このまま何も対策を行わなければ事故につながる可能性もあります。そこで、市民サービスの維持・向上と財政負担の軽減を両立させるための対策を行っていくことが必要です。

その対策として、ひとつの建物に複数の施設を集める「多機能化」があります。例えば、老朽化した施設を廃止し、その機能を学校など地域の中核施設に集める方法です。一か所でさまざまなサービスが提供できるといった利点がありますが、施設まで遠くなる地域がでてくるなどの課題もあります。他にも、スポーツ施設など民間が提供している同種のサービスで代替可能なものは、民間を利用してもらい、必要に応じて行政がその費用を助成する「ソフト化」も考えられます。これにより、公共施設にかかるコストを減らしつつ、サービスを維持することができそうです。



また今後は、新しく造ることよりも、長く大切に使うことが重要です。日々の維持管理はもちろん、修繕を適切に実施するなど「長寿命化」を図っていくことも対策のひとつです。他にもさまざまな対策が考えられ、それぞれ長所・短所があります。公共施設等の老朽化の問題を克服するため、市民の皆さんの意見を聴きながら、しっかりと検討を進めていきます。



地名にも残るように、新河岸川の旭橋付近にはかつて上新河岸と下新河岸がありました。川越と江戸を行き来する舟が集まる河岸場では、問屋が立ち並び、川越からは穀物や綿布などを積み出し、江戸からは油や小間物などが運ばれて大変栄えていました。

現在、新河岸自治会が地元商店会と共催して「新河岸川ひらたふね乗舟体験」を行っています。川の水も温む毎年4月29日に行われ、地域の子もたちや家族連れなどにぎわいます。昨年は500人を超える人たちが順番待ちをして、乗舟しました。舟頭は、新河岸川を遊び場にしていた地元の人たち。菅笠に半纏姿



岸辺には菜の花が咲き乱れ、黄色いじゅうたんのようです

で長竹竿を持ち、上り下りの30分程度の舟旅を操ります。乗客は、ライフジャケットを身に付け、手を振ったり歓声を上げたりして川の流れを楽しみます。

このように、地元の自治会と商店会が連携し、地域の自然と親しみながら、住民同士の交流や地域の活性化を図るとともに、郷土の歴史を体験できる機会づくりをしています。高階地区では、地域の絆を強め、住んで良かったと思えるまちづくりが行われています。

市民とともにつくる

安全で安心なまち川越

防災危機管理課 0224-5554

震災を忘れずこれからに備える

東北地方を中心に、甚大な被害をもたらした東日本大震災から3月11日で4年がたちます。現在も避難指示区域が設定され、避難生活をしている方が20万人以上と、いまだ被害は色濃く残っています。また、昨年11月22日には長野県北部で震度6強の断層帯地震が発生しました。負傷者は40人以上、住宅は全半壊を含め1500棟以上が損傷しましたが、住民同士の助け合いなどにより死者は0人でした。



県の調査によると、本市は東京湾北部地震(首都直下型地震)で最大震度6弱、断層帯地震である関東平野北西縁断層帯地震では、震度7の地震が発生すると想定されています。大地震発生時、少しでも負傷者等を減らすためには、自治会や自主防災組織と近隣住民の日ごろからの連携が大切です。また、非常持ち出し品や備蓄品の準備、家具やOA機器などの転倒防止、災害時の連絡方法の確認など、家庭や職場での地震対策を計画的に行うことも重要です。

大地震はいつ発生してもおかしくありません。日ごろから災害に対する備えを充実・強化しましょう。

ごみ処理とぴつくす

引越シーズン、多量のごみはどう捨てる？

資源循環推進課 0239-6267



新しい生活が始まることが多い3月と4月は、引越など多量のごみが出やすい時期です。普段利用している集積所に多量のごみを出すと、他の利用者がごみを出せなくなったり、通行の妨げになったりすることがあります。集積所に出す場合は、必ず少量ずつ何度かに分けて出してください。

もし一度に処分したい場合は、資源化センター！東清掃センターに直接持ち込むことができます。可燃や不燃など品目が違うごみを同時に出すことはできませんが、袋を分けるなど分別はあらかじめ行ってから持ち込んでください。

*各センターの受付時間・対象品目など詳しくは、この広報と同時期に配布される「平成27年度家庭ごみの分け方・出し方」で確認できます。

ごみ出しの強い味方 「川越市ごみ分別アプリ」 配信中！

収集日カレンダー、分別辞典など、ごみ出し情報を提供するスマートフォン向けアプリです。アプリは無料ですが、インターネット接続などにかかる費用は利用者の負担となります。

● iPhone 版



● Android 版

